

富士見市民大学公開講演会

アメリカ トランプ号の出航 その行方を探る

トランプ大統領の21世紀型

世界戦略を読み解く

日時 2月25日(土) 13:30~15:30

場所 鶴瀬コミュニティセンターホール

講師 堀江則雄氏(法政大学社会学部 講師)

第39期3回目の公開講演会を、上記の通り開催致しました。

今回のテーマは、先月20日アメリカ大統領に就任した「トランプ号の出航、その行方を探る」と題して、堀江則雄先生に講師をお願いしました。

富士見市民大学の各講座受講生の他、一般市民の方も29名来館、総勢72名の方に聴講頂きました。

はじめに

- 単なる政権交代ではなく、パラダイムの転換
- 総得票数では280万票も少ないが、R u s t B e l tでの勝利で決定

トランプを生み出したもの

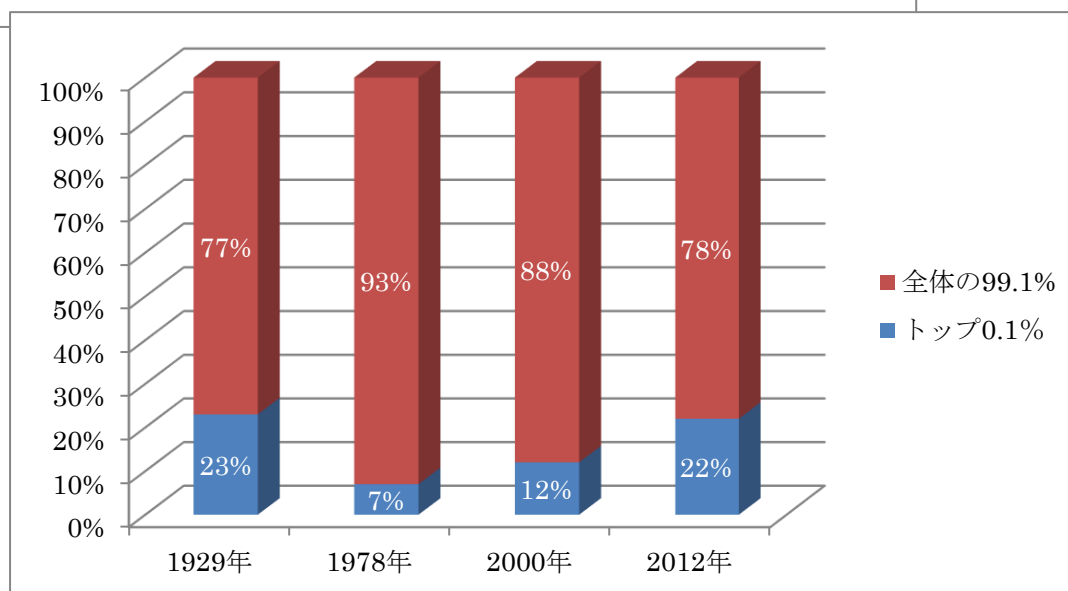
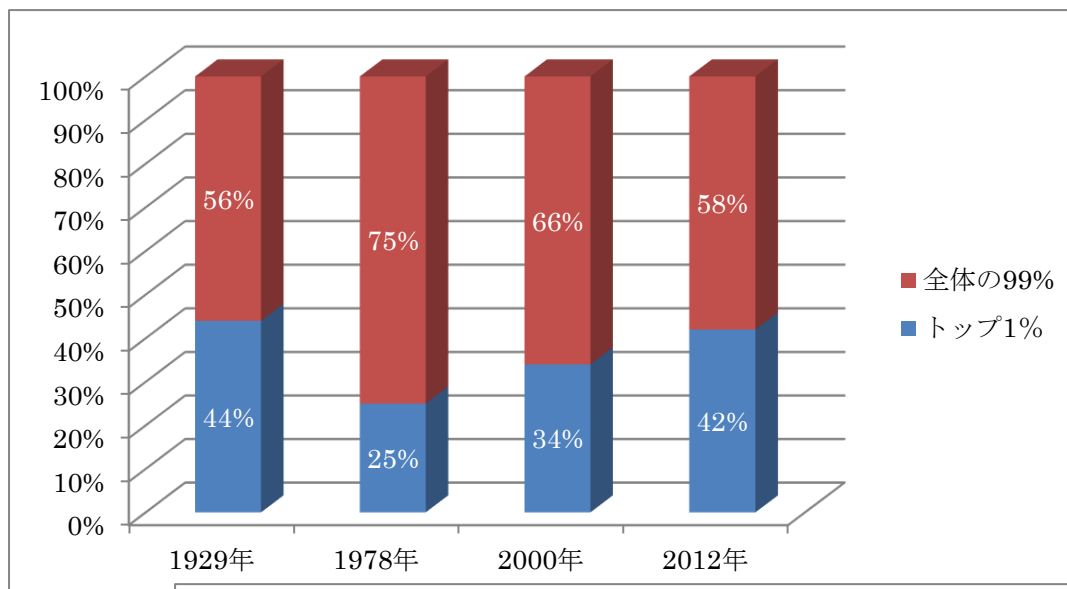
- 反グローバリズム、反自由貿易＝広がる格差と貧困
- 反エスタブリッシュメント(既得権層)＝ワシントンやウォール街、既成メディアへの反感
- 移民、難民問題＝不法移民1100万人、白人少数派転落の危機感



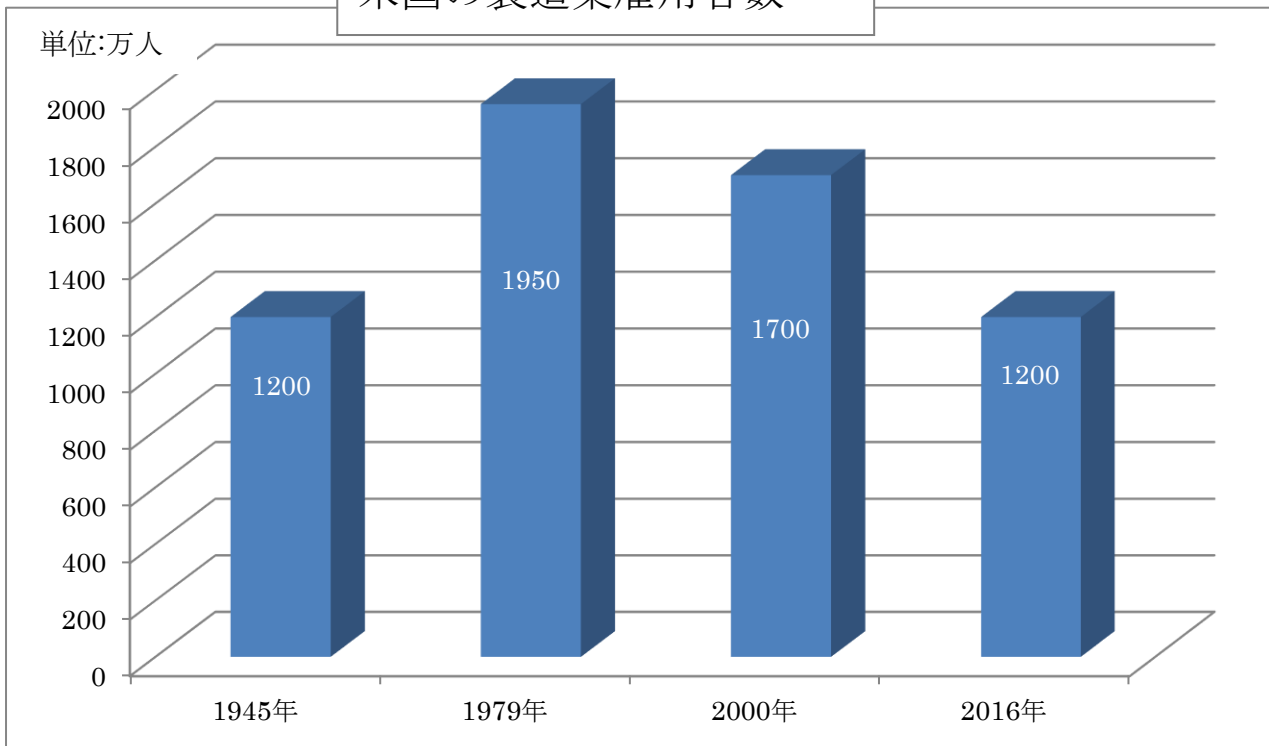
3G政権の発足

- 雇用増、格差是正、経済成長に応えられるか
- 3G=Gazillionaire (大富豪)、Goldman Sachs (大証券金融会社)、General (将軍)
- 大減税=法人税 35%→15%、10年間で8.2兆ドル
- 50兆ドル (10年間) のインフラ整備・2500万人の雇用創出
- 年4%成長→大きな矛盾
- 貿易赤字削減、為替操作制限→外国との軋轢生む
- 移民の国の移民制限→米国の力強さ、成長の足かせに

米国の富裕層の富の全体に占める割合



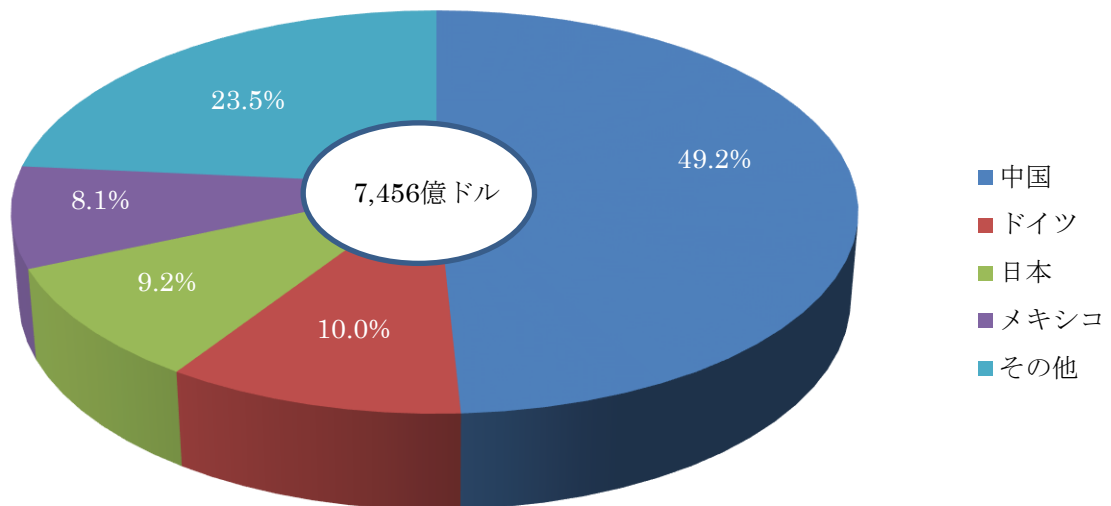
米国の製造業雇用者数



もう一つのアメリカが浮上

- トランプのキャラや主張の裏に、アメリカの伝統的潮流が見える
- Jacksonian Revolt (ジャクソン主義者の反乱) / 第7代大統領アンドリュー・ジャクソン (1829-1838) から地下水脈として続く思想潮流が注目される
- アメリカ・ポピュリズム (ナショナリズム)
 - 普通選挙導入、大衆扇動の粗野な民主主義、力 (銃) を背景に、個々人の平等や自由尊重
 - 米国のアイデンティティを啓蒙主義的な普遍的価値の実現に求めない
 - 孤立主義ではない
- トランプ政策 (イスラム 7 カ国入国禁止、メキシコ国境壁建設など) の底流に流れている

2015年 米国の貿易赤字



アメリカの世紀の終わりを象徴

- 米国が政治でも、経済でも、文化でも世界をリードしてきた時代の終焉
- 「米国民は初めて、戦後の米外交政策の核心にあった政策と理念、体制を攻撃する大統領を選んだ」

「世界に関与するコストやリスクを最小限にする」

- 自由や民主主義を世界に拡大するという論理で支配圏を広げる
→強者の力と狡猾さで利害を押し付ける

<トランプ就任演説>

- 米国の産業犠牲、他国の産業を豊かに
- 自国の国境守らず、他国の国境を守ってきた
- 米国の富、強さ、自信が地平線の彼方に消えた
一方、他国を裕福にしてきた
- これからは米国第一だけ、米国製品を買え、米国人を雇え
- 自由、人権、民主主義といった普遍的価値は一切言及せず

NATO (北大西洋条約機構)



加盟国: 28か国

設立年: 1949年(原加盟国12か国)

本部: ブリュッセル(ベルギー)

事務総長: イェンス・ストルテンベルグ(2014年10月~, 前ノルウェー首相)



ストルテンベルグ
事務総長

出典: 外務省 HP

アメリカは覇権国家から降りるのか?

○米国は世界の警察官にならない

○NATOは古くなった

→コストを優先する、核戦力の近代化、軍事力の効率化

NATOや日米同盟の負担増要求 (マティス国防長官)

世界 700 ヶ所の基地と駐留兵力 20 万人はどうなる?

○国連やさまざまな国際機関を「米国第一」から見直す→離脱や負担減

○国際経済統合のリードからの離脱

→TPP (環太平洋) TTIP (環大西洋) の否定とNAFTA (北米)

の見直し、二国間協定での「米国第一」追求

○冷戦思考から脱却した初の大統領

→対ロシアでは関係改善、対シリアでは戦略的協調も (ティラーソン国務長官)、対中国では経済利害追求戦略

多極化世界へ

○米国は例外主義、米国の「一極支配」

→米国は「一つの強国」に



共同体地図



【文責：秋山孝昭】